

# 回答【5】これが津島牛頭天王社にあった梵鐘



応永十年(1403)鑄造の市内最古の梵鐘。古くは牛頭天王社の神宮寺のもので、本殿北東の鐘楼に懸かっていた。明治元年の太政官布告神仏判然令により、五月に鐘楼を取り壊し、鐘は保管。同七年にこの鐘の鑄造地と言われる兼平町に払い下げ。以来百年近く同町で保管。昭和47年津島神社の宝物収蔵庫に寄託。銘に「尾張国海西郡津島牛頭天王鐘」とある。



「奉寄進天王弥五郎殿鰐口

施主太口糸八郎秀長敬白

時慶長貳年(1597)丁酉五月吉日」

## 【6】 神仏分離・廃仏毀釈運動の目的は皇室を尊崇することを狙っていた？

回答は【 】 国体神学の台頭

①明治維新政府の権威づけ

薩長藩閥政府のイデオロギー

②キリスト教の影響に対する不安

「皇国内復古神道」→「宗門改」

産土社で氏子改めを行う

③記紀神話(古事記・日本書紀)

延喜式神名帳に記された神々

歴代天皇・南朝の功臣を神として

祀った。



【7】 廃仏毀釈では、この国宝も危なかった？

# 【7】回答は【 】25円で売却との伝承があります

最も興福寺がダメージを受けた。春日大社と興福寺は、藤原氏の氏神・氏寺として古来一体であった。神仏判然令により両者をしっかり区別。行事の中には現在再興されたものもある。

興福寺の貫首が従僧を従えて春日大社の中門下に着座して「唯識論」を奉唱。次いで若宮神社前で『般若心経』。神仏習合時代(神仏混淆)の神前読経を偲ぶ行事が続いている。



星の宮と松隣寺





## 【8】神仏分離で住職が神官になった人がいる？

回答は【 】。

愛西市西保町の星大明神社の境内に、「光田翁碑」がこれは、寺子屋師匠で、松隣寺の住職、後に星大明神社の神官となった光田達之進の記念碑である。津島の宝珠山興禅寺(曹洞宗)の末寺。海東古禅林。星宮信仰(赤星明神)とは、虚空蔵菩薩を本地仏とする神仏習合であり、北極星や北斗七星に対する信仰、目の守護神としての信仰であり、そのため廃仏毀釈によって寺は廃寺となり、神社だけが残ったのである。



廃仏毀釈運動は明治政府が発令した神仏分離令を拡大解釈し、日頃仏教に恨みを抱いていた民衆と神官による破壊運動のことです。明治政府が出したのは『神仏分離令』(神仏判然令などの通達)。

# 【9】江戸時代に牛頭天王から素戔嗚尊となった？

答えは【 】真野時綱（1648～1717）

「吉田神道」「垂加神道」「伊勢神道」など諸神道を学ぶ。『尾張風土記』の編纂。天野信景らと共に尾張有数の学者の1人。津島社及び津島の歴史についてまとめる。

『藤嶋私記』『尾州津島天王祭祀』『大祭勘例帳』『津島踊記』などを執筆。神仏習合・陰陽道の牛頭天王観を否定。

- ◆「牛頭天王は素戔嗚尊の童名」
- ◆「素戔嗚尊の童部にて牛頭天王とも武塔天神とも申すなり」



藤嶋私記  
(刈谷市中央図書館村上文庫蔵)

# 【10】 明治になり牛頭天王信仰の聖地はなくなった？

回答は【 】

祇園社は ( 神社)

津島牛頭天王社 ( 神社)

※官幣社・国幣社とは

官幣社・・・神祇官が祀り、天皇皇族など朝廷関係の神社

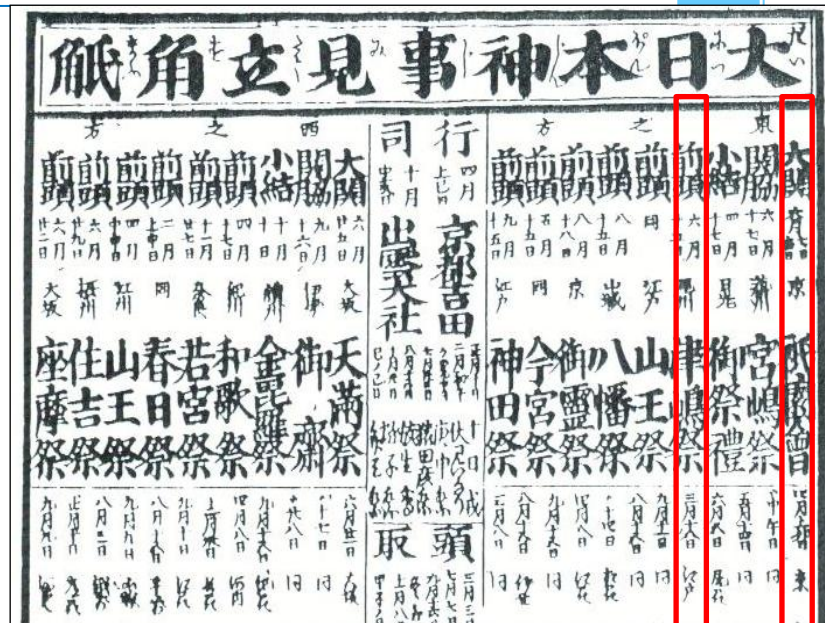
国幣社・・・地方官が祀り、諸国一宮など地方の有力な神社

官幣大社>国幣大社>官幣中社>国幣中社>官幣小社>国幣小社>

別格官幣社

※津島神社は「式内社」でなかったもので明治6年「県社」列格

※大正15年「国幣小社」



## 【 1 1 】 神仏分離令と廃仏毀釈運動は同じ？

答えは【     】 廃仏毀釈運動は明治政府が発令した神仏分離令を拡大解釈し、日頃仏教に恨みを抱いていた民衆と神官による仏教・仏像の破壊活動のことです。

慶應4年3月17日 太政官布告

「 諸国大小ノ神社ニ於テ（    ）ニテ別当或ハ社僧抔ト相唱へ候輩ハ 復飾被 仰出候」

慶應4年3月28日 太政官布告

「一 中古以来 某（    ）或ハ（    ）之類 其外仏語ヲ以神号ニ相称候神社不少候 何レモ其神社之由緒委細ニ書付 早々可申出候事 」

「一 （    ）ヲ以神体ト致候神社ハ 以来相改可申候事 附 本地抔ト唱へ 仏像ヲ社前ニ掛 或ハ（    ）梵鐘仏具等之類差置候分 早々取除キ可申事 」

# 【12】尾張津島天王祭は牛頭天王を喜ばす祭です。

○か×か。

回答⑫【       】 「西の八坂 東の津島」

牛頭天王信仰は、民衆の切実な願い。  
疫病は牛頭天王の荒魂（あらみたま）が起こすと信じられていた。  
荒ぶる神が優しい神（和魂にぎみたま）になれば、疫病を起さない。  
牛頭天王を慰め、楽しませるようにしました。  
その方法は読経・歌舞・音曲・走り馬など。

○素戔嗚尊が始めた 真野時綱『尾州津嶋天王祭記』

○後鳥羽上皇の時代に神のお告げ

『市江祭記』

○南北朝時代に始まった 津島神社・鉄燈籠の碑文

○永享8年(1436)台尻大隅守(黒宮)を討ち取った

『浪合記』

○『大祭筏場車記録』大永2年(1522)車楽舟の置物



神葎流し神事



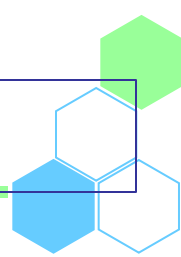
朝祭



宵祭



【13】江戸時代、朝祭の舟の数が少ない。○か×か。



回答【 】大山舟は舟2艘をつないで1艘に仕立てたもの。船の上に3段の山を積み、高さは20<sup>メートル</sup>。一番上ではからくり人形。



\*\*\* CORPORATION  
【14】尾張津島天王祭の神事は真夜中に行われる。

○か×か。



回答は【           】

尾張津島天王祭は3つの祭が行われます。陰暦6月14日に宵祭、15日に朝祭が行われていました。現在は7月第4土曜日と翌日曜日に行われます。

朝祭の日の深夜午前1時に『神葎流し（           ）神事』が行われます。（           ）をすべて消した暗闇の中で行われます。神葎には「真の神葎」・葉付・人形など6つの種類があります。

「真の神葎」は牛頭天王の神霊がよりつく依代（よりしろ）です。津島神社本殿内陣（本殿の奥）に1年間まつられていた「真の神葎」を新しい神葎に取り替えます。